

実施した交流プログラムの概要

資料 6 - 2

神戸大学 (申請大学)



ASEAN諸国の

医学・保健学分野におけるグローバルリーダーの育成

大阪大学



運営事務局

医学研究科・医学部 (責任部局)

グローバルリーダー育成センター サポートオフィス 事務局

- ・全体統括
- ・学生の派遣・受入・病院実習・共同研究
- ・成果報告会・遠隔授業の実施
- ・ホームページ(日本語・英語)による情報発信

保健学研究科

- ・学生の派遣・受入 サポートオフィス 事務局
- ・病院実習・共同研究・成果報告会・遠隔授業の実施
- ・WHO神戸センター講師による授業

微生物学病研究所

・共同研究

サポートオフィス 事務局 学生の派遣・受入 基礎研究実習

医学系研究科・医学部

サポートオフィス 事務局

・学生の派遣・受入・病院実習・共同研究

連携大学

・学生の派遣・受入・共同研究

インドネシア大学

アイルランガ大学

ガジャマダ大学

マヒドン大学

チェンマイ大学

他大学

各大学の サポートオフィス による学生支援

双方向遠隔授業
システムによるセミナー・
報告会・会議・面接

学生選考方法

志望理由書、研究計画、学業成績、面接、学生交流に関する貢献度(留学生バディとしての実績)等により総合的に評価し選考

セミナー
プログラム

単位認定
プログラム

単位認定
プログラム

学位取得
プログラム

派遣前
教育

修士・博士課程: 海外交流校で開催されるセミナー・国際学会での発表・企画・運営等

派遣前
教育

医学部生: 病院実習等

修士・博士課程: 現地調査、研究等

派遣前
教育

医学部生: 病院実習等

修士・博士課程: 最先端の研究等

派遣前
教育

博士課程: 派遣先大学の博士課程に在籍し学位取得を目指す

インターンシップ、演習、教職員による英語での指導

研究発表

成果報告会
修了書授与
単位取得

成果報告会
修了書授与
単位取得

学位授与

・ASEAN諸国を含む発展途上国に多い疾患・感染症等の症例・問題、医療制度・文化の違い・多様性を理解・経験、実践的な英会話
→ASEAN諸国、世界で活躍

国際的な舞台
で活躍できる
人材の育成
・医師・看護師
・医療専門職者
・医療産業人
・研究者

・最先端の教育指導及び設備の下、医学・保健学の最新の知識と技術を修得、実践的な英会話
→母国・ASEAN諸国で活躍

・最新知識・情報の提供、共有
・英語による発表の機会の提供
→英語会話能力の涵養

遠隔
授業

セミナー
プログラム

医学部生・
修士・博士課程:

遠隔授業システムを利用したセミナー・報告会での発表・企画・運営、教職員による講義

セミナーでの
発表

実績

		H24	H25	H26	H27	H28
派遣学生数	3か月未満	8	18	24	27	39
	3か月以上	3	6	4	0	0
受入学生数	3か月未満	0	15	32	52	49
	3か月以上	3	8	8	7	3

※平成28年12月27日時点（平成29年3月末までの派遣・受入予定学生数を含む）

※平成27年度以降、3か月以上のインドネシア派遣に必要な社会文化ビザの申請要件の変更に伴いビザ取得が困難となり、3か月から2か月の派遣に変更になった。

質の保証を伴った交流枠組み（相互単位認定、共同学位プログラム等）の形成

質の保証体制の構築

内部での質保証

コンソーシアム運営委員会

- ・目的と目標の共有
- ・プログラム運営、学生支援等に係る情報共有、必要事項の協議
- ・カリキュラム、シラバス、成績基準、単位認定等に係る協議・情報の共有
- ・自己点検・評価

外部からの質保証

外部評価委員会

- 外部の医学・保健学分野、国際交流の専門家により構成
- ・自己点検評価の妥当性を客観的に評価・検証
- ・評価・検証内容をもとに助言

内部での質保証

コンソーシアム運営委員会

- ・外部評価委員より受けた評価・検証、助言をもとにプログラムの運営、内容の改善を図る

相互単位認定のための評価様式の作成

4週間の派遣・受入プログラムに参加する学生が多い。

- 研修期間が短いため派遣先大学での単位取得が困難
- 共通のテンプレートを元に各大学の基準に合わせた評価様式を作成
- 派遣元大学の単位の一部として研修内容を読み替える。

 **Supervisor's Report** 

Name of Student _____
Attached to _____
Date _____
Supervisor _____

Professional Qualities	Unacceptable	Below Average	Average	Above Average	Outstanding	Not applicable
Attendance						
Medical knowledge						
Data gathering and analysis						
Judgment skill						
Presentation skill						
Attitude						

Overall evaluation: ☐ Fail ☐ Pass ☐ Good ☐ Excellent

Date: _____

Supervisor's Signature: _____

We welcome your comments and feedback (optional):

神戸大学様式の評価書

 **Supervisor's Report on Elective Student**

Name of Student _____
Institution/Organization _____
Department _____
Period _____
Supervisor _____

Professional Qualities	Unacceptable	Below Average	Average	Above Average	Outstanding	Not Applicable
Attendance						
Knowledge Base						
Support with patients						
Clinical judgement						
Case records						
Case presentation						
Technical ability						
Ability to work unsupervised						
Overall Assessment						

Comments:

Signature: _____ Date: ____/____/____

マヒドン大学様式の評価書

プログラム参加後の学生のフォローアップ・出口対策

派遣学生に対する フォローアップ・サポート

- ・プログラム参加学生が国内外の国際保健医療機関、グローバル企業、コンサルタント会社、大学の教員等の進路選択ができるよう最大限サポートしている。
- ・多くの学生は学部最終学年時にプログラムに参加し、卒業後は臨床の現場で活躍している。
- ・参加学生4名が大学院修了後、教職員として採用され、留学の経験を活かし国際共同研究や教育、本プログラムの運営に関わっている。
- ・参加学生6名が大学院に進学し、国際保健学領域など留学経験を活かせる分野を専攻している。

受入学生に対する フォローアップ・サポート

- ・プログラム終了時に担当教職員が面談の機会を設けている。日本への留学を希望する場合は、進学や奨学金に関する情報提供・サポートを行っている。
- ・神戸大学医学研究科で受入れた学生2名が同大学院医学研究科博士課程に入学している。
- ・神戸大学保健学研究科で受入れた大学院生4名がプログラム終了後、本国の大学教員として活躍している。

学生同士の交流の促進

- ・受入学生の学業や日常生活の補助を行う留学生バディとして学部学生を雇用
- 母国への帰国後、受入学生が派遣学生の補助を行うなど自主的な相互援助関係が構築されつつある。
 - ・バディ経験学生が本プログラムで海外に派遣されている。
- ・日本人、受入学生が参加する英語でのディベートクラスの開講。



情報の発信・成果の普及

ホームページの作製



<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/index.html>

- 日本語、英語版共に作製し国内外を問わず情報・成果の発信
- 成果報告会、英語でのディベートクラス、事前研修会などのイベント情報を発信
- プログラム参加学生の体験レポートを掲載

成果報告会・論文発表による成果の普及



双方向遠隔授業システムによるセミナー

- 学内での成果報告会の開催、留学セミナーにおける講演活動
- 海外連携大学と遠隔授業システムで結び成果報告会、セミナーを開催
- プログラム参加学生が得られた成果を国際共著論文として発表

今後の展開

プログラム継続のための取り組み

- ・Elective Programを開設し継続的に留学生を受け入れるためのプログラムや制度を整えた (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/elepro/>)。
- ・平成29年度以降もプログラム参加学生の援助を行うため、JASSO海外留学支援制度や同窓会からの寄附金による奨学金の給付を検討している。平成29年度以降も学位取得プログラムを継続する学生については、同窓会からの資金援助を予定している。
- ・交流大学毎に担当教員を決め、交流の継続に向けた現地への訪問や協議を行う予定となっている。

Visiting Electives Program at Kobe University

How to apply

Please note that our fiscal year starts on April 1 and ends on March 31 and plan to complete your elective program to be finished by the end of fiscal year.

For students interested in undertaking our elective program, they are required to download and fill out an application form and documents. Hard copies of the application form and documents should reach us no later than 2 month prior to selected starting date of elective.

The length of time of the elective programs is 4 weeks in principle. Students are affixed to a senior coordinator in 2 specialties and will be rotated to each specialty for 2 weeks, or in 1 specialty for 4 weeks (please see the following list of specialty programs). The students show up at ward rounds, out patients, operation theaters, and research labs.

Please verify

that your institution appears on the list of International Affiliations of Kobe University Graduate School of Medicine/School of Medicine. Apply only if your school is on the list. If your school is not on the list, please have your school administrator contact us at: glory@med.kobe-u.ac.jp

Please note that the maximum number of students from the same medical school enrolled at the same time is five.

List of International Affiliations of Kobe University Graduate School of Medicine/School of Medicine.

Table of Contents

- ▶ Application Form
- ▶ School of Medicine
- ▶ Kobe University Hospital
- ▶ Contact
- ▶ Access

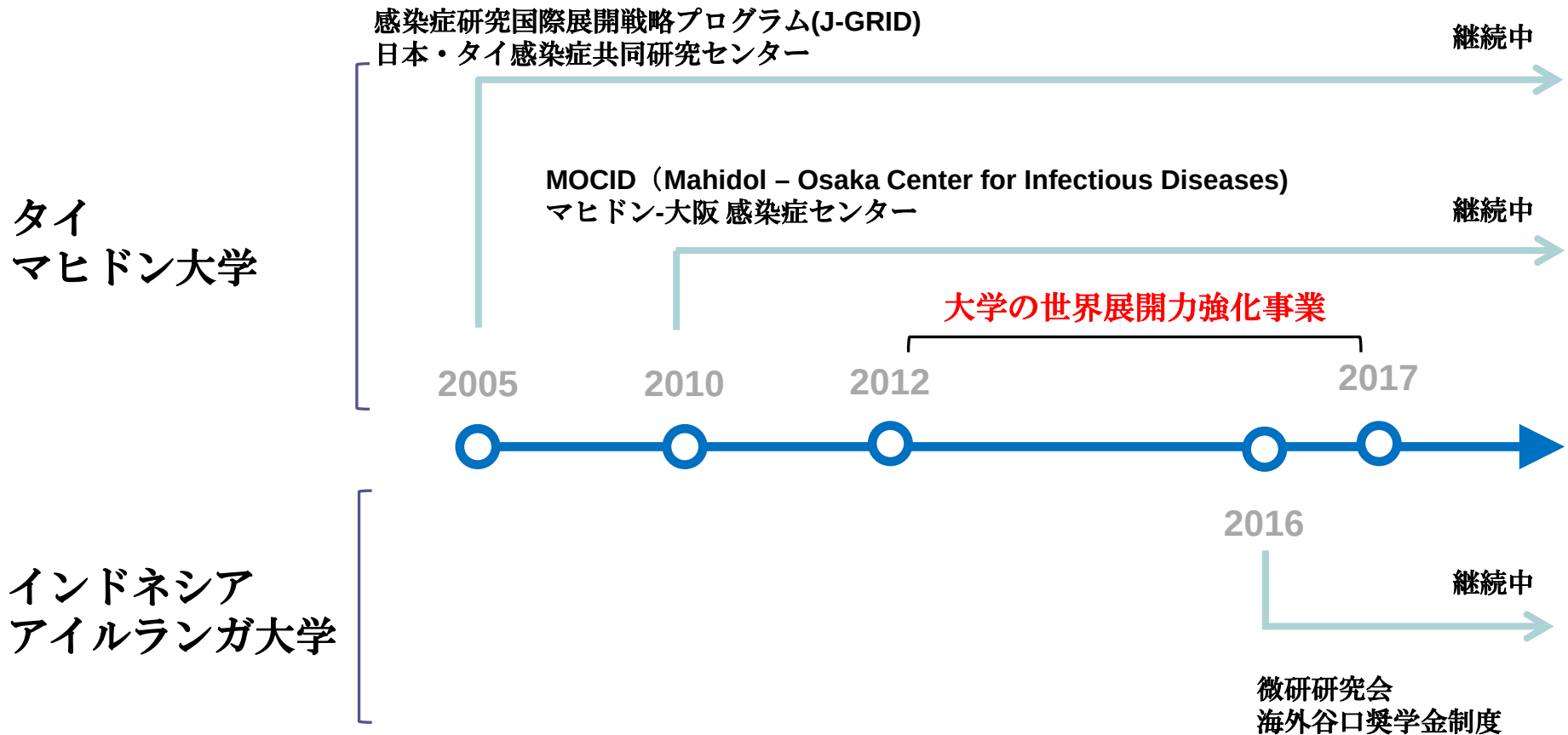
Elective Programホームページ

交流の拡大に向けた取り組み

- ・医学、看護学、臨床検査技術学に加えリハビリテーション科学分野の学生を対象としたプログラム実施を計画している。
- ・医学・保健学のソーシャルニーズが高いASEAN諸国(ベトナム、フィリピン、マレーシアなど)を中心に学生派遣・受入を計画する。
- ・Elective Programへ参加を希望する学生が所属する大学について、MOUの締結に向けた協議を行う。

発展的な交流のための取り組み

- ・ダブルディグリープログラムの実施に向け、神戸大学医学研究科とインドネシア・ガジャマダ大学医学部、パジャジャラン大学医学部間、及びタイ・マヒドン大学シリラー医学部間でMOUを締結している。
- ・ダブルディグリープログラムの実施に向け、学生の選考条件やカリキュラム、学位取得要件についての協議を進めている。
- ・大阪大学微生物病研究所では、本事業の他にもタイ、インドネシアとの共同プログラムを進めており、今後も教育・研究の面で連携していく予定である。



大阪大学 微生物病研究所では、大学の世界展開力強化事業の他にもタイ・インドネシアとの共同プログラムを進めており、今後も教育・研究の面で連携していく予定である。